

カタクチイワシの資源・漁業 及び資源管理について(その2)



平成25年11月
水産庁

資料の構成

1. 検討の経緯・今後の予定
2. 資源評価の更新
3. アンケートの結果概要
4. 資源管理の現状
5. 今後の方向性(案)

1. 検討の経緯・今後の予定

24年3月：水産基本計画において、「TAC魚種の拡大について引き続き検討する」ことを規定

11月：第59回水産政策審議会資源管理分科会において、TAC魚種について議論し、現時点で追加の必要性は低いが引き続き検討とした

25年2～3月：各広域漁業調整委員会において、資源状況、漁業実態及び資源管理について説明し、今後の管理のあり方について議論を開始

5月：広調委での検討状況を、第61回水政審資源管理分科会に報告

7～8月：関係都道府県から、資源管理に関する情報及び意見を聴取

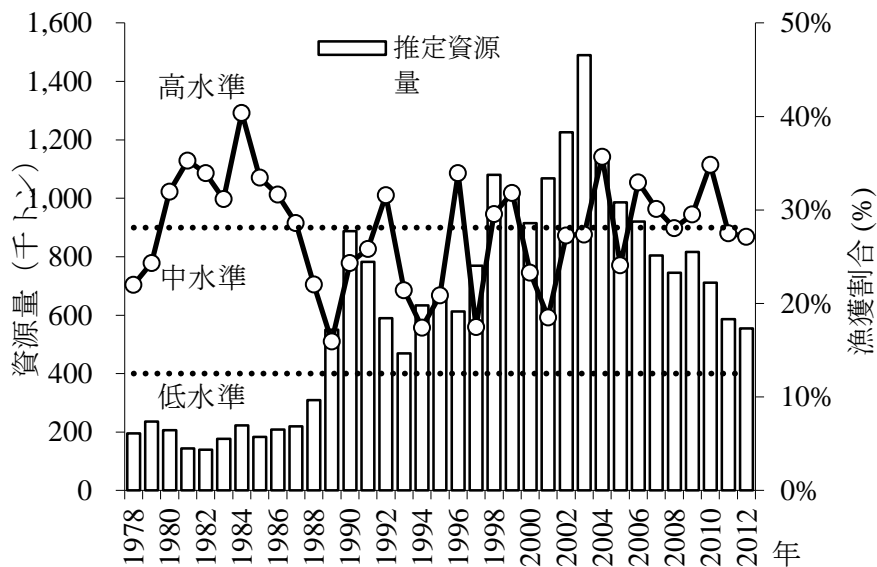
11月：各広調委において、資源管理に関する今後の方向性を議論

11月：各広調委での検討状況を、第63回水政審資源管理分科会に報告（予定）

26年2～3月：各広調委において、検討を継続（予定）

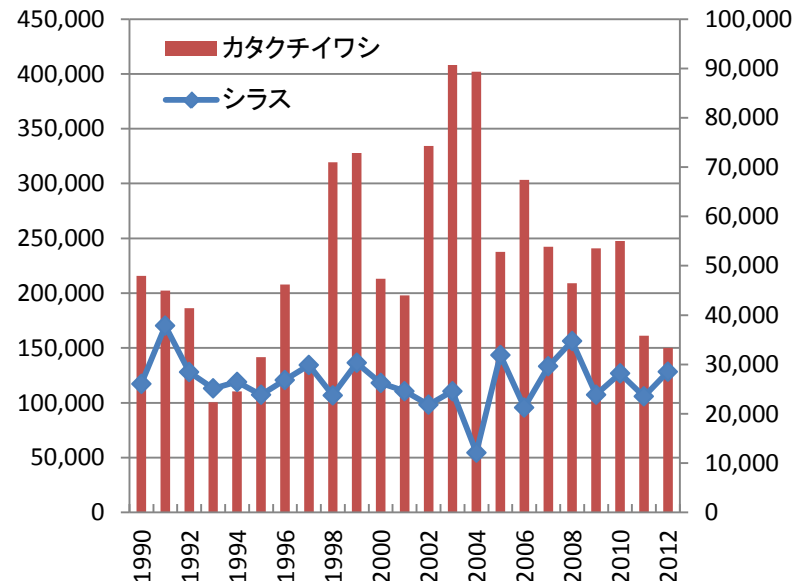
2-1. 資源評価の更新(太平洋系群)

- 平成24年の資源水準は中位・減少。平成25年も中位・減少は変わらず。
- 近年は沖合域の資源分布が減少(漁場は沿岸に形成)。
- 他の系群に比べ海洋環境の影響により資源が大きく変動。
- シラス漁業が資源に与える影響は小さい。



資源量と漁獲割合

出典:(独)水産総合研究センター

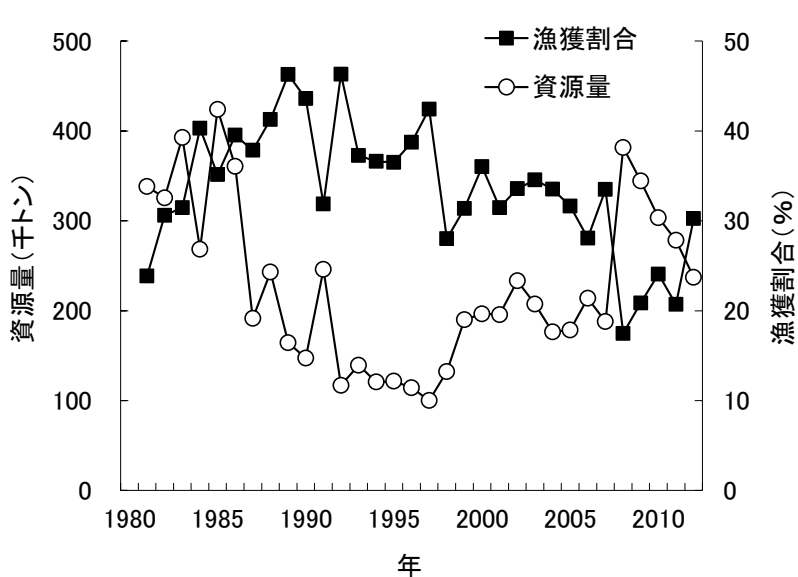


カタクチイワシとシラスの漁獲量

出典:(独)水産総合研究センター

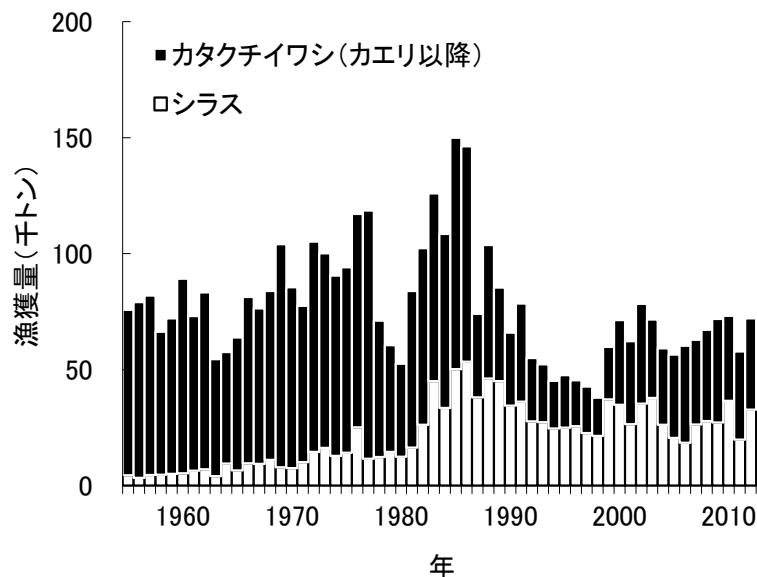
2-2. 資源評価の更新(瀬戸内海系群)

- 平成24年の資源水準は中位・横ばい。平成25年は中位・減少に変更。
- 瀬戸内海の再生産と、春期に太平洋から来遊するシラスによって資源が維持。
- 同じ漁獲量でも、どのサイズで漁獲されたかによって資源への影響は異なる。



資源量と漁獲割合

出典:(独)水産総合研究センター

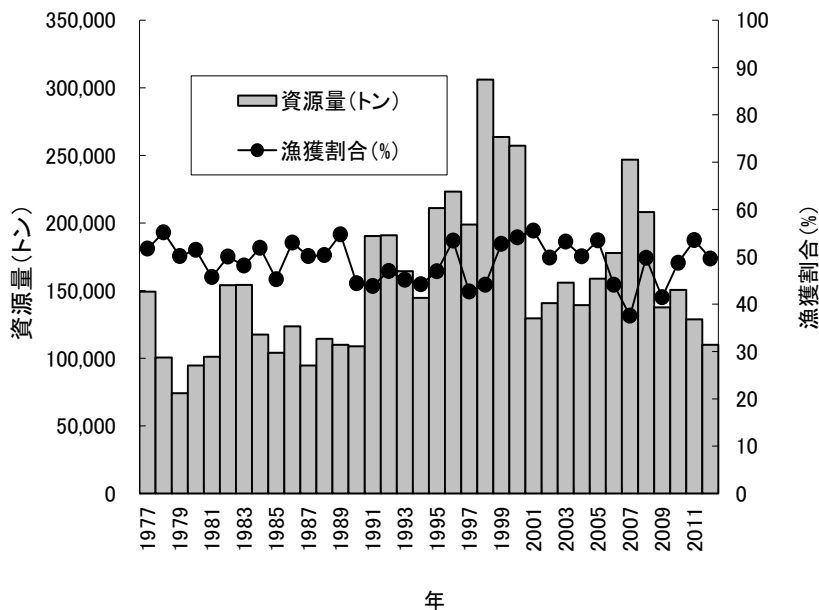


カタクチイワシとシラスの漁獲量

出典:(独)水産総合研究センター

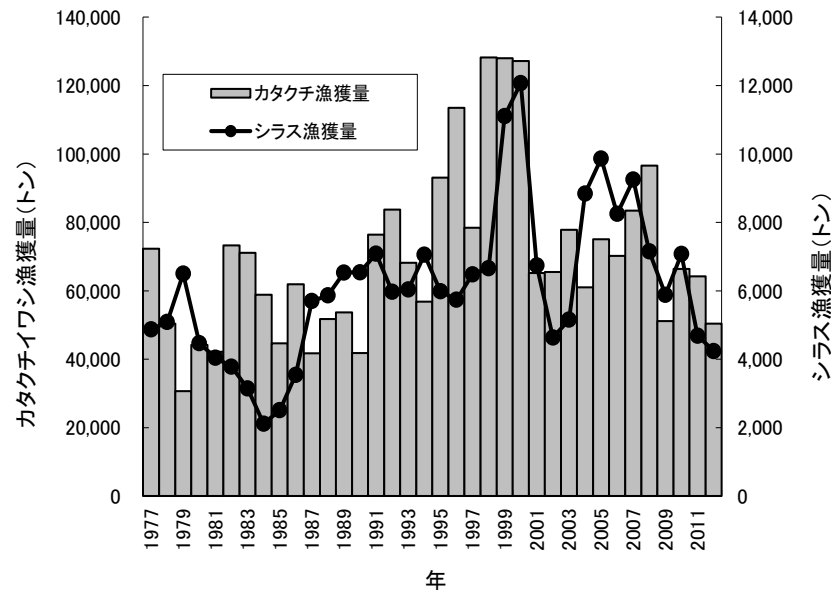
2-3. 資源評価の更新(対馬暖流系群)

- 平成24年の資源水準は中位・減少。平成25年は低位・減少に変更。
- 資源は海洋環境の影響を受けて変動する。
- シラスの漁獲が資源に与える影響は瀬戸内海系群に比べると小さい。



資源量と漁獲割合

出典:(独)水産総合研究センター



カタクチイワシとシラスの漁獲量

出典:(独)水産総合研究センター

3-1. 都道府県に対するアンケートの内容

- 25年6月末、関係都道府県に対して、海域毎に以下の内容のアンケートを依頼した。
 - ① カタクチイワシの漁業及び漁業管理に関する有用な情報
(特に、シラスを漁獲する漁業の管理について、どのような取り組みを行っているか)
 - ② カタクチイワシの管理に関する意見
(特に、イ)県を跨いだ資源をどのように管理すべきか、ロ)資源状況が悪化した場合にどのような対策を講じるべきか)
- 8月中に、依頼した殆どの都道府県から回答が寄せられた。
- 次頁以降に記すとおり、多岐にわたる事項について、様々な情報・意見が寄せられた。
- ただし、今回のアンケートを元に個別項目に関する統計を取ることには困難(回答ぶりは各県の裁量のため)。

3-2. アンケートの結果概要①

(現行の管理措置)

➤ 海区・県による対応

- 漁獲実態が無い、混獲のみ等の理由から、特段の資源管理を行っていない
- 県の管理指針や、漁業種別の資源管理計画に措置を盛り込んでいる
- 関係県との連携を行っている
 - … 海区・県でカタクチイワシ漁業の実態が違うことから、その管理体制も異なる

➤ 漁業種類別の措置

- 定置網漁業において目合い規制、休漁措置等を講じている
- まき網、船びき網等の漁船漁業では、県による操業隻数等の規制や、自主的な休漁等の措置を講じている
 - … 漁業種別で見ても操業実態や管理の方法は様々

➤ シラスの漁獲

- シラス来遊に応じた操業期間の設定等の措置を実施
- シラスの来遊調査や漁海況予報を行い情報共有
 - … シラスを専獲する漁業があり、シラスのための管理取り組みがある

3-2. アンケートの結果概要②

(管理のあり方に関する意見:その1)

➤ 一般的な意見

- 国が主体となって資源管理を行うべき
- 県で既に様々な管理に取り組んでおり、必要十分である
- 漁業者による自主的な取り組みを維持していくべき
- 現時点で特段の管理の必要性は低い
 - … 資源管理のあり方に関する基本的な立場が分かれている
- 系群によって漁業実態や利用状況が異なることから、一律の規制は難しく、地域や漁業の特性を勘案すべき
- 瀬戸内海系群は太平洋系群とも関連しており、太平洋系群の広域的な管理が必要
 - … 地域や漁業の違いに留意すべき一方、資源は広域的に関連している
- 資源量が海洋環境に影響され、年による漁場形成の差が大きい
- 資源状況や漁業の影響について調査研究が必要
- 漁獲報告を義務付けて動向を把握すべき
 - … 資源の変動要因等について検討すべき課題がある

3-2. アンケートの結果概要③

(管理のあり方に関する意見:その2)

➤ 県を跨いだ管理について

- 海区別に広域的な管理が必要
- 隣県との調整も実施しており、既存の枠組みで対応可能
- 県を跨いだ資源管理までは必要ない
- 各地域・漁業で公平感をもってもらえる管理が必要
 - … 資源管理のあるべき規模について立場が分かれている

➤ 資源状況が悪化した際の管理について

- 資源状態の良いときから管理を行い悪化を防ぐべき
- 過去の変動幅を超えて資源が悪化した際には、対策を導入すべき
- 関係県と漁業団体で措置について協議すべき
 - … 資源が悪化した場合の対応の必要性については認識
- 漁獲努力量の削減、休漁の増加等が必要
- 能動的な漁業を主体に規制すべき
- 成魚の漁獲管理を行い資源を安定化させるべき
- シラスの採捕制限を行うべき
 - … 具体的な資源源管措置については様々な考えがある

3-2. アンケートの結果概要④

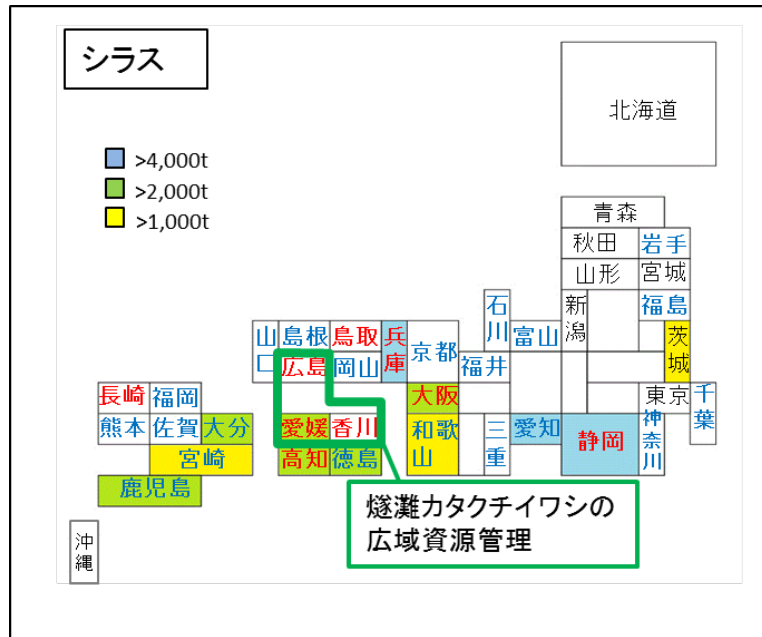
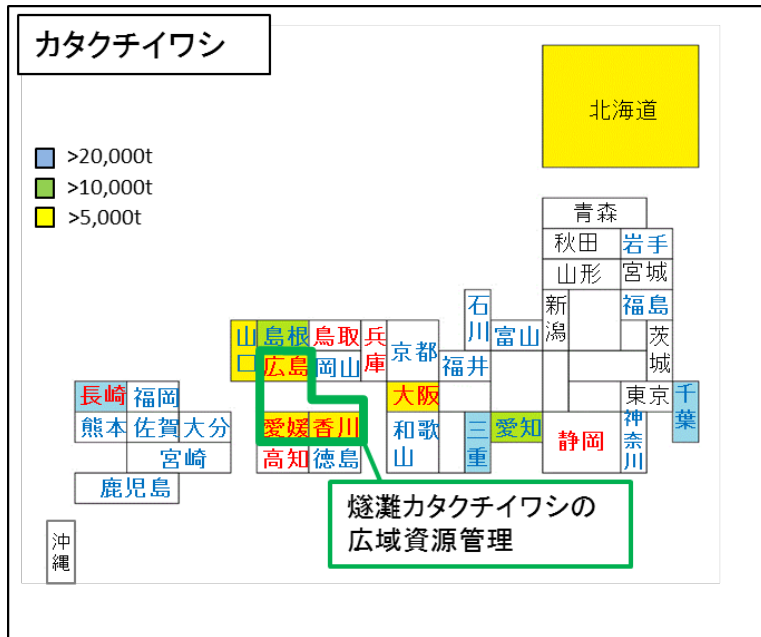
(管理のあり方に関する意見:その3)

➤ 漁獲量の管理に関する意見

- TACを海域毎に配分し、海域内で調整・配分を行うべき
- 資源状況が悪化した場合にはTACも考えられる
- シラスの漁獲量を規制すべき
- 季節発生群毎にABCを算定すべき
 - … TAC管理の導入を肯定・示唆する意見がある
- (当県においては)漁獲が資源全体に与える影響は低いのでTACは必要ない
- 漁獲量が安定しており、資源動向と漁獲の関係も明らかでは無いことから、TAC導入には反対
- 受動的な定置網による特定種の管理は困難
- 成長段階毎に様々な漁法で漁獲されるため、漁獲量の管理より漁獲努力量の管理が適当
 - … TAC管理の必要性・実効性に対する疑問や、別途の措置を求める意見もある

4. カタクチイワシの資源管理の現状

- 国の資源管理指針:カタクチイワシの資源管理について定めていない。
- 都道府県の資源管理指針:漁獲のある34道府県のうち、カタクチイワシを魚種別資源管理の対象としているのは、静岡県、大阪府など9府県。漁業種類別資源管理の対象としているのは、岩手県、福島県など22府県。



- 資源管理指針に定められた管理措置
- 定置網
 - 操業期間制限
 - 休漁設定
 - 漁具制限
 - 操業時間制限
 - 操業日数制限
 - 船びき網
 - 休漁設定
 - 操業区域制限
 - 漁具制限
 - まき網
 - 休漁設定

図中の色は、漁獲量の水準を示す

都道府県が定めた資源管理指針においてカタクチイワシ若しくはシラスを管理の対象としている場合、赤字、漁業種類別資源管理の対象としている場合、青字で表示。

- 瀬戸内海系群においては、広島県、香川県、愛媛県が連携してカタクチイワシの県を跨いだ資源管理を実施。

5. 今後の方向性(案)

1. カタクチイワシが全国各地で漁獲され、漁獲量も多いことを踏まえると、国の資源管理指針において、今後の取り組みの方向性を一般的な形であれ示すことが望ましい。
2. カタクチイワシが太平洋、瀬戸内海、日本海の3つの系群に分かれ、シラスから成魚まで満遍なく、多様な漁業で漁獲されていること等を踏まえ、各地域・漁業種類の実態と管理取り組みの状況が十分に勘案されるべき。
3. 今後、系群毎に資源や漁獲の動向をモニタリングした上で、各地域・漁業の管理等の情報を共有しつつ、資源管理について定期的に議論を行っていくことが必要。
4. これらの点を踏まえると、広域漁業調整委員会を中心として各海区で検討を継続し、水産政策審議会等に報告していくべき。